

平成 31 年 4 月 17 日

教 育 長 様

代表者 校 園 名 : 大阪市立本田小学校

校 園 長 名 : 銭本 三千宏

校印

電 話 : 06-6581-1531 F A X : 06-6581-3194

事務職員名 : 喜連 尋滋

申請者 校 園 名 : 大阪市立本田小学校

職 名 ・ 名 前 : 首席・流田 賢一

電 話 : 06-6581-1531 F A X : 06-6581-3194

研究コース
グループ研究B
校 園 コード (代表者校 園 の市費コード)
561155

平成31年度 「がんばる先生支援」研究支援 申請書

◇本研究の支援を受けたく、次のとおり申請します。

1	研究コース	コース名	グループ研究B	研究年数	継続研究 (3 年目)
2	研究テーマ	資質・能力を育成する国語科授業のあり方 ー パフォーマンス評価を活用して ー			
3	研究目的	<p>テーマに合致した目的を端的に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新学習指導要領でめざす見方・考え方を働かせた学びができる児童の育成 ○ 学期に複数教材の提案 (カリキュラム・マネジメント) と学習評価の充実 ○ 学びを積み重ね、児童に確かな力をつけるための系統指導表 (読むこと) の作成 ○ パフォーマンス課題で学びを活用する「読む×○○」の言語活動の単元構成検討 ○ 資質・能力を育成し、汎用的能力が身についた児童の育成 ○ 教科の本質をとらえた授業づくり研究会を定期的に開催 ○ 先進的研究校から講師招聘し、公開授業・講演会を企画・運営し、大阪市全体へ拡大 ○ 研究会を開催し、研究内容を実践に取り入れることで教員の指導力を向上 			
4	研究内容	<p>継続研究は、前年度の成果と課題を分析した内容を踏まえて記載してください。</p> <p>系統を意識した指導の重要性、学期に複数教材を活用し児童に力をつけるという本研究は、前年度参加者に受け入れられた。系統表や複数教材一覧の冊子は参加者に好評で実践が広がりつつある。児童アンケートからは、国語の授業が楽しいと肯定的な回答が増え、学力向上にもつながった。以上が成果である。課題として本年度取り組む内容は、作成した冊子の再検討と複数教材の冊子活用のための実践事例作成である。そして、教材のまとまりの中で育成する力を確認するパフォーマンス課題を実践するために単元構成を見直し・検討する。以下内容を記す。</p> <p>① パフォーマンス課題実施のための単元構成の検討 新学習指導要領をもとにして単元で育成する力を明らかにし、児童に身に付いたかを確認するためのパフォーマンス課題を設定する。パフォーマンス課題とルーブリックを各回テーマを設けた公開授業研究会で提案する。各回のテーマは以下の通りである。 公開①テーマ 「読む×書く」の公開授業研究会 (本田小) 公開②テーマ 「読む×話す・聞く」の公開授業研究会 (南百済小) 公開③テーマ 2020年改定教科書を先取りパフォーマンス課題の公開授業研究会 (豊新小)</p> <p>② 「読む×書く」「読む×話す・聞く」の実践事例の作成 身に付けた力を表現する「読む×○○」のパフォーマンスを整理する。複数教材を活用した指導、単元構成を実践事例にまとめ冊子を作成する。</p> <p>③ カリキュラム・マネジメントを用いた複数教材一覧、系統表の見直し、複数教材実践例を作成 2年間で作成した冊子を見直し、再検討する。参加者の学校で実践するための手立てとして、複数教材を活用した実践事例の冊子を作成する。 以上の内容を実践し、児童に資質・能力を育成する国語科授業の研究を推進する。</p>			

5	活動計画	<p>日程や内容など、研究の過程がわかるように詳細に記載してください。</p> <p>毎月1回以上の国語研修会、年間を通して系統指導・複数教材の見直し、実践事例の作成</p> <p>4月 振り返り、研究テーマ設定、目的・内容の検討、国語研修会（以降月1回以上）</p> <p>5月 教員・児童へのアンケート作成・実施・分析、系統指導・複数教材の冊子の見直し</p> <p>6月 「読む×書く」の実践研究、パフォーマンス課題実施のための単元構成を検討</p> <p>7月 授業づくり研修会 講師：明星大学教授 教材分析から授業づくりの要点を学ぶ</p> <p>8月 先進的研究校での研究会参加、1学期の実践を振り返り実践事例を作成</p> <p>9月 公開授業の指導案作成、研修会の伝達講習、アンケートを分析し研究内容を再検討</p> <p>10月 公開授業研究会提案準備、実践例「読む×書く」の冊子作成</p> <p>11月 「読む×書く」公開研究会開催 講師：明星大学教授（本田小）、実践例冊子配布</p> <p>12月 公開授業研究会提案準備、実践例「読む×話す・聞く」の冊子作成</p> <p>1月 「読む×話す・聞く」公開研究会開催 講師：明星大学教授（南百済小）</p> <p>2020年改定教科書を先取りパフォーマンス課題の公開授業研究会開催（豊新小）</p> <p>研究成果：説明文と物語文の「複数教材」「新学習指導要領」「実践例」の冊子</p> <p>パフォーマンス課題実践例「読む×書く」「読む×話す・聞く」の冊子配布</p> <p>2月 研究のまとめ作成、教員・児童へのアンケート実施、事前アンケートとの比較・分析</p>				
6	見込まれる成果とその検証方法	<p>大阪市教育振興基本計画に示されている、<u>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</u>および<u>教員の資質や指導力の向上</u>について、見込まれる成果を端的に記載し、その成果について、客観的な指標により必ず数値で示すことができる検証方法を記載してください。</p> <p>○パフォーマンス課題に取り組むことで、自らの学びを振り返ることができる。身に付いた力を児童自ら認識できるため、国語の力がついたと実感する児童の育成をめざす。 【検証方法】アンケート項目「国語の学習で自分に力がついた」で肯定的割合を80%以上にし、「国語の学習で身についた力は何か」で具体的に記述する割合を80%以上にする。</p> <p>○新学習指導要領では知識を活用できることを求めている。パフォーマンス課題に取り組むことで、学んだことを社会で活用できる（真正の学習）と実感する児童を育成する。 【検証方法】アンケート項目「国語で学んだことは社会で役立つ」で肯定的割合を80%以上にし、「国語は日常生活のどんな場で役立つか」で具体的に記述する割合を80%以上にする。</p> <p>○パフォーマンス課題「読む×○○」を研究することにより、「読むこと」の知識を活用できる児童が増え、学力が向上する。 【検証方法】国語の経年調査「思考・判断・表現」に関する項目において、前年度比5ポイント上昇させる。</p> <p>○本研究の系統指導の提案を聞いた研究会の参加者が、実践の大切さを知る。それに加え、冊子の内容に満足し、提案内容の賛同割合が増える。系統指導の実践が広がることにより、教員の指導力向上につながる。 【検証方法】アンケート項目「系統指導は大切」の割合を90%以上、「冊子は役立つ」の割合を90%以上、「系統指導をしている」を年度始めと比較して5ポイント上昇させる。</p> <p>○複数教材を活用したカリキュラム・マネジメントの実践を公開授業と提案で知り、賛同する教員が増える。そして、配布した実践事例冊子を参考にして、実践する割合が増えることにより、教員の指導力向上につながる。 【検証方法】アンケート項目「複数教材の指導は有効」の割合を90%以上、「冊子は役立つ」の割合を90%以上、「複数教材の指導を実践」を年度始めと比較して5ポイント上昇させる。</p> <p>○公開研究会を年間3回複数校で実施し、悩みを解消できる国語の授業づくり研修を企画・運営する。参加者の満足度を高め、教員の輪を広げる研究会にする。 【検証方法】「授業づくりの悩み」の内容を研究内容や研究会の内容を再検討に活用し、アンケート項目「研究会に満足」の割合を90%以上にする。参加者合計100名超にする。</p>				
7	研究成果の共有方法	<p>◆研究発表【必須】 <u>報告書提出日（2020年2月25日）までに必ず行ってください。</u></p> <p>○研究発表の日程・場所（予定）</p> <table><tr><td>日程</td><td>令和 元 年 11 月 13 日</td><td>場所</td><td>大阪市立本田小学校</td></tr></table> <p>◆代表校園HPでの共有【必須】</p> <p>他の共有方法を計画している場合は記載してください。</p> <p>公開授業研究会を複数校開催（南百済小、豊新小）、冊子配布8種類（上記5に記載）</p> <p>外部研究会で本研究内容を口頭発表、雑誌等で書面発表、他校へ指導助言で研究内容発信</p>	日程	令和 元 年 11 月 13 日	場所	大阪市立本田小学校
日程	令和 元 年 11 月 13 日	場所	大阪市立本田小学校			
8	代表校園長のコメント	<p>1980年代半ばに起きた認知革命以前は「読みとは、筆者・作者が書いたテキストが読者の頭にプリントされる過程である。」という「行動主義の読み観」で国語教育は指導されていた。しかし、認知革命を経て、現在では「読みとは、固有の文脈の中で、テキスト（筆者・作者）や他者と対話しながら、自身の知識・経験とテキストをつなぎ合わせて、読者自身に新しい意味を創造する過程である。」という「構成主義の読み観」が成立している。学習指導要領にもそのことが明記されているにも関わらず、未だに「行動主義の読み観」で国語教育がなされているのを目にする。「話す・聞く・書く・読む」をパフォーマンス課題に集約し、「構成主義の読み観」に基づく国語科の指導を推進するのが本研究の趣旨である。今後の国語教育に有益なものであると推薦する。</p>				